



## 年頭所感

野部 達夫  
TATSUO NOBE

((一社) 建築設備技術者協会 会長, 工学院大学建築学部 教授)

皆様、明けましておめでとうございます。協会会員の皆様におかれましては本年のご多幸を衷心より祈念しております。

建築物省エネ法の規制措置がいよいよこの4月から発効されますが、建築設備技術者に対する期待はますます高まる状況です。会員の皆様は、今まで以上に仕事の手応えを感じるようになるのではないのでしょうか。

さて、本稿は年頭所感とのことですが、定型の言辭は最小限にとどめ、所感をありのままにお伝えしたいと思います。協会の活動の内容や方向性につきましては、昨年発行した「JABMEE VISION 2030」をご覧戴ければ幸いです。

昨年は世界の情勢に大きな変化の兆しが見られ、グローバル化の神通力にもやや陰りが見え始めました。我が国も社会が明らかに成長期から成熟期へと遷移し、様々なストラテジーもそれに対応させる必要が生じて参りました。基本的には内需型産業である我々の仕事の方向を定める条件が見えてきたところで、仕事の中身も質的变化を必要としているのではないのでしょうか。遮二無二突き進めば充足感が得られた前世紀とは一線を画する新たな時代の到来です。また、地球環境の保全ももちろん重要ですが、我々がそれに貢献するためには職能を十二分に発揮することが出来る諸環境の整備も重要で、こちらも同時に解決しなければならない課題です。

協会の運営は小生一人が力んでみても空回りに終わってしまうと思います。しかし、雰囲気づくりには微力ながら貢献できるのではないかと密かに考えてお

ります。示唆に富む意見を封殺しない雰囲気醸成、自由な議論の場の構築、職能の尊厳を実感できる仕組み作りなど、やりたいことはいろいろありますが、まずは我々を取り巻く事象をつぶさに素直に観察し、考察し、言葉にすることから始まると思います。

我々の仕事は努力や結果が一般の方の目に見えにくいところに諸問題の要因があると考えております。確かにコストや数値では仕事の一部を評価することが出来ませんが、物差しがこれしかない現状の消耗戦の疲弊を脱却することが出来ません。従って、まずは仕事を数値以外の尺度で目に見えるようにすることが大切です。我々が馴染んだ工学という居心地の良い小宇宙における部分最適に満足せず、外部の知見も動員してより広い世界で物事を捉える必要があります。これは建築設備を形而上で語る事が出来る「文化」に昇華させることに他なりません。言霊信仰でもないのですが、同じ事を何度も口に出さないと自分の信念も固まりませんし、雰囲気醸成にも至らず、実現する可能性はさらになくと思います。ということで、この点に関しては今年も折あるごとに何度でも云わせて頂こうと考えております。

本年も建築設備六団体協議会（空気調和・衛生工学会、建築設備技術者協会、電気設備学会、日本空調衛生工事業協会、日本設備設計事務所協会及び日本電設工業協会）と共に、建築に機能という息吹を吹き込んでいきたいと考えております。一緒に深い議論をしていこうではありませんか。